

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3 【そなえる】	⑳ 【学校・家庭・地域での日頃の備え】 台風や集中豪雨による洪水や土石流に対する避難場所や避難方法、避難経路を把握して、安全に避難する防災対策を学校と家庭、地域が連携して行う。	教科(総合的な学習の時間、特別活動)

【題材】 地域防災マップ作り

【対象】 全校児童44名、保護者

地域に住む方々(祖父母、民生児童委員、学校評議員、公民館長等)

【実践の概要・詳細】

**実践の概要**

近年急増している台風・集中豪雨による洪水や土石流などの自然災害への備えとして、地区子供会単位で防災マップを作成し、子供会で地域の安全を見直す活動に取り組んだ。

具体的には、地区読書会の日を活用して、親子で危険箇所調べを行い、危険箇所を写真と文にまとめた。写真や文を児童が学校に持ち寄り、学校でマップ作成に取り組んだ。マップは、世代間交流参観日で保護者や地域に住む方々に発信した。地域の方々からの意見をもとに修正を加えて完成させたマップは、地区の集会所や公民館への掲示用と家庭用とを作成した。

**実践の詳細**

- (1) 事前学習(地区長)
  - ・防災マップ作りの進め方について学習する。
- (2) 第1回地区読書会
  - ・防災マップ作りの計画を立てる。
- (3) 地区懇談会・第2回地区読書会
  - ・親子で危険箇所を調べ、白地図に危険箇所を記録する。
- (4) 第3回地区読書会
  - ・危険箇所の意見感想を交流し、付箋に書く。
- (5) 学校でのマップ作り
  - ・地図に公共物や避難場所、危険箇所の写真や付箋を記録しまとめる。
- (6) 世代間交流参観日に地域の方へ発表
  - ・地区ごとに発表し、意見交流を行う。
- (7) 防災マップの見直し
  - ・一日参観日に親子でマップの見直しを行う。
- (8) 防災マップ完成
  - ・地区懇談会で防災マップを紹介する。各地区公民館に掲示していただくよう依頼した。



危険箇所調べ



防災マップ作り



地域の方々の参観



防災マップの見直し

## 【授業の展開】

## 防災マップ発表会（地域への発信・交流）

作成した防災マップを地域の方に聴いていただくために、10月8日の世代間交流参観日に発表会を行った。地区ごと6会場に分かれて行った。参加していただいた地域の方は、祖父母をはじめ、民生児童委員、学校評議員、公民館長の方々であった。

〔授業の流れ〕

各地区担当教諭が発表会の趣旨を説明する。黒板に掲示した防災マップをもとに児童が分担して説明した。マップを作成した理由、マップに記されている図や記号の説明、危険箇所を写真別に危険な理由や意見の発表を行う。発表後に、参観された方々から意見や感想をいただいた。



防災マップの説明

## 児童の感想

- ・マップ作りは2回目だけど、新しく危険箇所を見つけられたので、マップ作りをして良かった。他の地区でも危険箇所を調べたい。
- ・おじいさんやおばあさんに危険な場所を知らせることができたので良かった。もっと危険な場所があると思うので新たな危険を探したい。うなずきながら聞いてくれてうれしかった。もっと危険な場所を書きたい。
- ・自分たちが見回って見つけられなかった危険なところを地域の方々から教えてもらったので勉強になった。避難場所が分かったので安心したという感想がうれしかった。
- ・洪水が起きた場合、避難場所は2カ所にした方がいいと教えてもらって勉強になった。
- ・危険で落ちそうな穴を直すように言ってくれた。たくさんのおばあちゃんに落ちないように気をつけてほしいと言われた。

## まとめ

- ・防災マップ作成を通し、危険箇所や避難場所を確認し、日頃からのそなえの大切さを学習することができた。
- ・親子で危険箇所を調べ、地域の方々から新たな気づきや励ましをいただき、児童はマップを作成した喜びを味わい、マップを完成させる意欲を高めた。
- ・児童は、台風や集中豪雨による災害に対するの行動について、判断する力が高まってきている。
- ・今年度作成した防災マップの活用がさらに図られるために、洪水や土石流を想定しての避難訓練を実施し、児童の判断・行動力を高めたい。

## 保護者・地域の感想

- ・防災マップで危険な場所が確認できて良かった。
- ・よく調べていて感心した。
- ・避難場所が分かったので安心した。
- ・発表の仕方がしっかりして立派だった。
- ・洪水と地震では、避難場所が違うから、災害に応じて行動や避難場所を選ぶことが大切になる。



完成した  
防災マップ